

140円台まで上昇した米ドル円

米金利上昇による日米金利差拡大が米ドル高・円安の背景に

2022年9月2日

インフレ見通しとFRBの利上げ姿勢が米金利と米ドル円を左右か

米ドル円は9月1日に1998年8月以来24年ぶりとなる140円台まで上昇しました。米国の週間新規失業保険申請件数が前週比増加との市場予想に反し減少したうえ、8月ISM製造業景況感指数が前月比低下との市場予想に反し横ばいにとどまったことが、米金利上昇と米ドル高を招いたためです。また、金利上昇にもかかわらず米国の株価は堅調に推移したため、リスクオフの円高圧力が働かなかったことも一因です。

FRB（米連邦準備制度理事会）がインフレ抑制のために大幅な追加利上げを行うとの見方が米金利を上昇させ、米ドル高に働いています。米経済指標は景気減速を示しつつも、景気後退懸念を強めるほどには弱まっていないため、米金利が上昇しても株価が大幅に下落する状況とはならず、リスクオフの円高を抑制しています。日銀の金融引き締め思惑の後退で円安になった6-7月を除けば、日米金利差拡大（縮小）なら円安米ドル高（円高米ドル安）傾向が続いています。そのため今後も米金利が米ドル円のカギです。

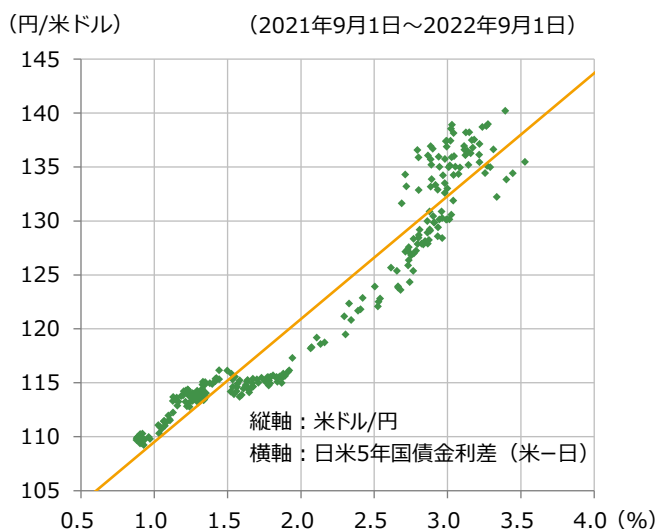
インフレ見通しが高まらなければFRBが利上げ姿勢を顕著に強めることもなく、中長期金利の上昇も限定的となるでしょう。米ドル円との相関が高い米5年国債金利は7月以降2年国債金利を下回っており、今後もそうした状況が続くそうです。現在3.4%程度の米5年国債金利が、3.5%になると米ドル円は132.7～143.3円、3.0%になると127.0～137.6円に収まりやすいと言えます。米金利が上昇しても株安などリスクオフの動きが限定的であれば、米ドル円は143円程度まで上昇する余地があると考えられます。

日米5年国債金利差と米ドル円①



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

日米5年国債金利差と米ドル円②



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント